

伊豆東岸定置網のブリの漁獲量の長期変動

伊豆半島東岸には大型定置網が張りたてられており、ブリ、マアジ、スルメイカなどが漁獲されています。それら大型定置網のうち、伊豆山、古網、赤石（2007年以降、休業）、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津の8ヶ統については1982年以降、魚種別の漁獲量が毎日、集計されています。その大型定置網において漁獲されたブリ（銘柄：ワカシ、イナダ、ワラサ、ブリ）について1982年から2012年までの31年間において、月別に年別に漁獲量を集計しました。得られた年別漁獲量を別に集計した大型定置網の年間の操業日数で除して、年別に1日1ヶ統当たりの漁獲量を求め、その期間の1日1ヶ統当たりの漁獲量の年変化（1次回帰式の傾き）を求めました。

その結果、全国的にもみられるブリ資源の増加を反映してワカシ、イナダ、ワラサ、ブリの1日1ヶ統当たりの漁獲量では増加傾向がみられました（図1）。

また、年別の平均漁獲時期を $(1 \times 1 \text{ 月漁獲量} + 2 \times 2 \text{ 月漁獲量} + \dots + 11 \times 11 \text{ 月漁獲量} + 12 \times 12 \text{ 月漁獲量}) \div (\text{年間漁獲量})$ で求め、1982年から2012年までの平均漁獲時期の年変化について1次回帰式にあてはめて求めました。

その結果、ワカシ、イナダ、ブリでは顕著ではありませんでしたが、ワラサでは漁獲の時期が31年間で0.8ヶ月程、早くなる傾向がみられました（図2）。

近年、伊豆半島東岸では3～6月にかけて比較的脂の乗ったワラサが多く漁獲されており、そのことが年別の平均漁獲時期を相対的に早めているものと考えられました（図3）。また、3～6月のワラサの多獲はブリ資源の増加によって秋～冬にかけて分布域を北方まで拡大した2歳魚（ワラサ）が水温の低下とともに北方から南下回遊する時期（春）に伊豆の沿岸で漁獲されることが多くなったことを反映するものではないかとも考えています。

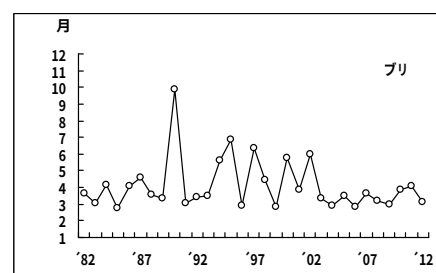
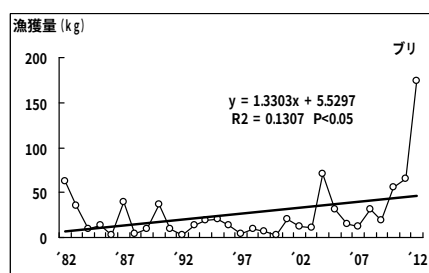
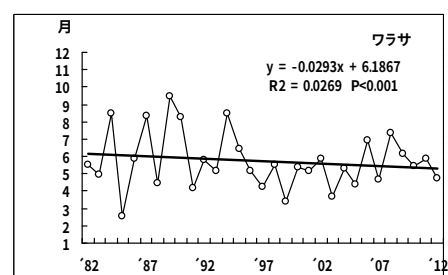
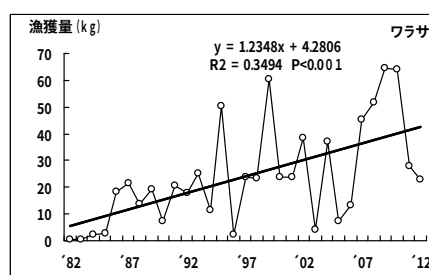
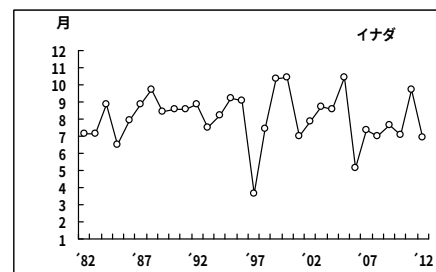
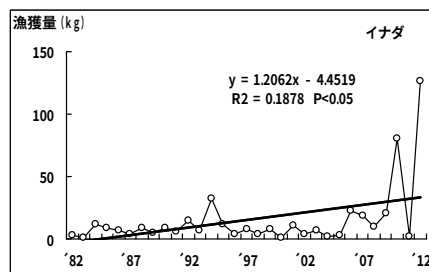
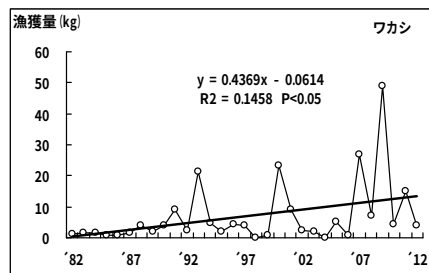


図1 年別の1日1ヶ統当たりの漁獲量の推移

図2 漁獲時期の推移

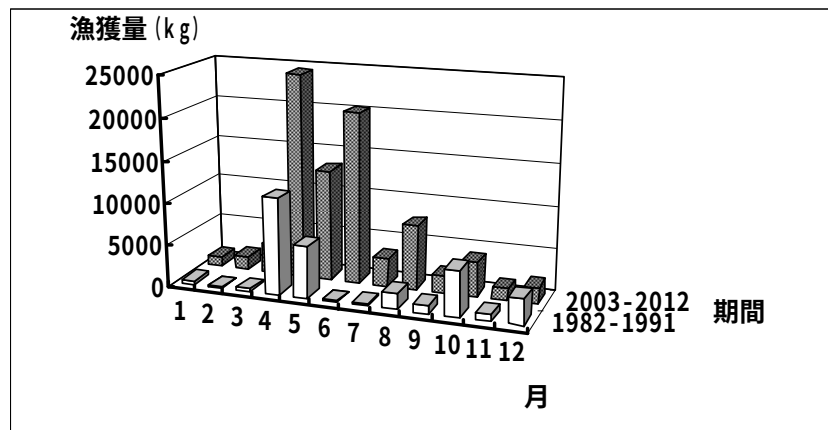


図3 ワラサの1982～1991年と2003～2012年における月別平均漁獲量

(平井一行)